

## 調査結果の概要

### 1 暮らし向き

昨年に比べての暮らし向きについては、「悪くなった」と答えた人の割合が48.2%、「変わらない」が46.0%となっている。平成17年調査（以下「前回調査」という。）と比較してみると、「良くなった」（4.9%）と答えた人の割合は0.4ポイント減少し、一方「悪くなった」（48.2%）は10.6ポイント増加している。また、「変わらない」と答えた人の割合は10.0ポイント減少し、「悪くなった」と順位が入れ替わった。

なお、暮らし向きが「悪くなった」理由としては、「収入が減った（働き手が減った）」（41.1%）と答えた人の割合が特に高く、前々回の16年調査以降は減少傾向にあるものの、依然として第1位となっている。また、「日常の生活費が増えた」は、前回調査と比較して11.4ポイントと大幅に増加している。

具体的な項目でみると、「良くなった」と答えた人の割合は「道路など公共施設による便利さ」（11.0%）、「通勤や買い物の便利さ」（9.8%）などの項目で比較的高い。一方「悪くなった」と答えた人の割合は、「貯蓄」（54.2%）、「所得・収入」（48.3%）、「レジャー・余暇生活」（37.4%）の項目で高くなっている。

暮らし向きの程度については、76.9%の人が「中」と答え、県民の中流意識は引き続き強いが、前回調査と比較すると3.5ポイント減少した。一方、「下」と答えた人の割合は前回と比較して4.9ポイント増加し、15.9%となっている。

資産（土地、家屋、預貯金等）の程度については、66.2%の人が中流と答え、暮らし向きの程度（中流：76.9%）と比較すると評価が低く、前回調査同様、資産の程度の脆弱さがうかがえる。

普段の生活における時間的なゆとりの有無については、前回調査に比べ「ゆとりがある」と答えた人の割合が0.3ポイント増加し48.0%、一方「ゆとりがない」と答えた人の割合も0.4ポイント増加し48.9%となっている。経年変化を見ると「ゆとりがある」は微減傾向に、「ゆとりがない」は微増傾向にある。

現在の暮らしに対する満足度については、「満足」と答えた人の割合が59.2%と、暮らしへの満足度は引き続き高くなっているが、前回調査と比較すると1.8ポイント減少して60%を割っており、一方で「不満」と答えた人の割合は2.0ポイント増加し、38.3%となっている。

日常生活の中で悩みや不安を感じていることについては、「家族の健康について」と答えた人の割合が59.1%と最も高く、以下、「老後の生活設計について」（56.9%）「自分の健康について」（53.8%）、「今後の生活費の見通し」（51.3%）などの順であり、悩みや不安の多くは、健康や将来の生活に関することになっている。

普段の生活の中で最も不足しているものについては、「収入」と答えた人の割合が43.2%と特に高く、以下「自由に使える時間」（15.6%）、「資産（土地、家屋、

預貯金等)」(7.9%)などの順となっている。

なお、19.9%の人は「特にない」と答えている。

自由時間と収入についての考え方は、「自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い(自由派)」(40.2%)と答えた人の割合が「自由時間を減らしても、現在以上の収入を得たい(収入派)」(36.2%)と答えた人の割合を上回っているが、収入派は前回と比較すると4.7ポイント増加し、自由派との差が縮まっており、収入に重点が移行する傾向にある。

日常生活で充実感を感じる時については、「家族団らんの時」と答えた人の割合が25.7%と最も高く、以下「趣味やスポーツに熱中している時」(19.9%)、「ゆったりと休養している時」(15.7%)、「仕事に打ち込んでいる時」(13.8%)などの順となっている。

暮らしの先行き観については、「悪くなっていく」と答えた人の割合が41.0%と最も高く、前回調査に比べ2.0ポイント増加し、初めて40%を超えた。一方、「良くなっていく」は1.4ポイント減少し、6.9%となっている。

今後の暮らしで改善したいことについては、「貯蓄」と答えた人の割合が34.7%と最も高く、以下「旅行・レジャー・余暇生活」(18.3%)、「食生活」(12.2%)、「教育・教養」(8.9%)、「住宅」(8.1%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「旅行・レジャー・余暇生活」に力を入れたいと答えた人の割合が1.9ポイント増加したほか、「教育・教養」は0.5ポイント増加し、「住宅」(0.7ポイント減)と順位が入れ替わった。

今後の暮らしについては、「心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合が24.6%で、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の22.3%を上回っている。

「心の豊かさやゆとり」の内容としては、「健康を大切にする」(42.9%)と答えた人が最も高く、次いで「家族・友人とのふれあいを大切にする」(26.5%)、「趣味や習い事に生きがいを見つける生活」(13.3%)などの順であった。

また、「物質的な面」の内容としては、「耐久消費財(立派な家具、最新の自動車・電気器具など)のそろった快適な暮らし」と答えた人の割合が24.7%と最も高く、以下「広くて設備の整った家に住む」(24.1%)、「趣味・娯楽に関する良いものを購入する」(20.6%)などの順となっている。

## 2 広報・広聴

県の広報活動の周知度については、「県広報紙」(54.8%)、「テレビ広報番組」(52.0%)と答えた人の割合が特に高くなっている。

県のテレビ広報番組の視聴経験は、「愛!愛!!えひめ(南海放送)」が31.8%、「愛媛なんでも県聞録(テレビ愛媛)」が28.8%となっている。

番組を見ての感想を聞いたところ、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が46.0%と最も多くなっている。また、見たことがない理由については、「放送されていることを知らなかった」が57.8%で最も多くなっている。

県のラジオ広報番組の聴取経験は、「週刊さわやか愛媛（南海放送）」が 8.1%、「県政FM情報（FM愛媛）」が 6.0%となっている。

番組を聞いての感想を聞いたところ、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が36.3%と最も多くなっている。また、聞いたことがない理由については、「放送されていることを知らなかった」が53.0%で最も多くなっている。

県民だより「さわやか愛媛」の周知度については、68.4%の人が知っていると答えており、「読んでいる」と答えた人の割合は 66.8%（「全体をよく読んでいる」（18.5%）、「興味のあるところを選んで読んでいる」（48.3%））となっており、関心を持って利用していることがうかがえる。

県政に関する情報を得る方法は、「テレビ」と答えた人の割合が 53.5%と最も高く、次いで「新聞」（52.7%）となっている。

知りたいと思う県政情報については、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が 31.1%と最も高く、以下「県の予算の内容と使いみち」（26.6%）、「県の施設の紹介や利用方法」（23.6%）、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」（22.7%）などの順となっている。

県民の声を県政に反映させる手段については、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が 32.9%と最も高く、以下「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」（19.5%）、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」（15.1%）などの順となっている。

県への意見、要望等の伝達方法については、「県に電話をかける」と答えた人の割合が 22.8%と最も高く、以下、「市町役場を通じる」（14.1%）、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」（13.7%）などの順となっている。

平成18年度から実施している県政出前講座について聞いたところ、「知らなかった」と答えた人の割合が90.7%となっている。なお、今後「利用したい」は18.9%、「利用したいとは思わない」は24.6%となっている。

利用したいと思わない理由については、「利用する時間がないから」と答えた人の割合が24.6%と最も多く、以下「県政に興味がないから」（18.3%）、「講座は難しそうなイメージがあるから」（15.2%）などの順となっている。

### 3 愛媛県のイメージ

現在の愛媛県のイメージについては、「水と緑が多く、自然環境に恵まれてい

る」と答えた人の割合が 74.7%と特に高く、以下「不便である」(28.1%)、「後進的である」(25.7%)、「文化、スポーツ活動が盛んである」(21.1%)、「閉鎖的である」(20.4%)などの順となっている。

今後の愛媛県のあるべき姿のイメージについては、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」と答えた人の割合が52.2%と最も高く、以下「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」(48.4%)、「高齢者や障害者にもやさしい」(36.6%)などの順となっている。

#### 4 県政への要望

産業面で特に力を入れてほしいこととしては、「雇用対策」と答えた人の割合が 35.6%と特に高く、以下「中小企業対策」(17.1%)、「農林業の振興」(15.8%)、「道路整備」(13.2%)などの順となっている。

生活環境面で特に力を入れてほしいこととしては、「医療、保健衛生機能の拡充」と答えた人の割合が 31.0%と最も高く、以下「社会福祉の充実」(28.7%)、「物価、消費者保護対策」(20.9%)などの順となっている。

教育面で特に力を入れてほしいこととしては、「学校教育の充実」と答えた人の割合が 39.5%と最も高く、以下「社会教育の充実」(26.8%)、「家庭教育の充実」(17.1%)などの順となっている。

#### 5 特定課題

##### 〔地上デジタル放送の利活用〕

地上デジタル放送に期待する情報やサービスについて聞いたところ、「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」と答えた人の割合が58.9%と最も多く、以下「当番医や夜間診療所などの医療・救急情報」(48.1%)、「天気予報や交通情報などの身近な情報」(27.3%)、「地域イベントの案内などの地域(市町)限定情報」(19.4%)などの順となっている。

##### 〔男女共同参画社会づくり〕

「男女共同参画社会」の認知度について聞いたところ、知っていると答えた人は 71.8%（「よく知っている」(20.0%)、「聞いたことがある」(51.8%)）で、7割を越えている。

男女共同参画社会を形成していくために、県が力を入れるべきことについて聞いたところ、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合が半数以上の54.9%と最も多く、次いで「女性の就労の機

会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため職業教育や職業訓練を充実する」(33.7%)、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」(31.1%)などの順となっている。

#### 〔地球温暖化問題〕

地球温暖化問題への関心の度合いについて聞いたところ、「関心がある」と答えた人の割合は85.8%〔「非常に関心がある」(29.0%)、「関心がある」(56.8%)〕、「関心がない」は9.8%〔「あまり関心がない」(9.4%)、「関心がない」(0.4%)〕となっている。

地球温暖化の防止に向けて必要な取組みについて聞いたところ、「買い物袋持参やクールビズに代表される省エネルギーの推進などによるライフスタイル・ワークスタイルの見直し」と答えた人の割合が48.4%で最も多く、次いで「二酸化炭素を吸収、固定化するための森林整備や都市緑化の推進」(44.5%)、「エアコンや冷蔵庫など家庭で使用する電気・ガス製品のエネルギー消費効率の改善」(39.9%)などの順となっている。

#### 〔ごみの減量化に関する取組み〕

ごみを少なくするために心がけていることについて聞いたところ、「詰め替え製品をよく使う」と答えた人の割合が68.1%と最も多く、次いで「壊れても修理したり、部品交換したりして、できるだけ長く使う」(41.0%)、「過剰あるいは unnecessaryな包装を断るなど、簡易包装を店に求めている」(40.1%)、「使用済みトレイや牛乳パックなど、スーパーの店頭回収に持っていく」(39.6%)などの順となっている。

スーパーなどでのレジ袋の有料化についてどう思うか聞いたところ、「有料化すべきである」と答えた人の割合は43.0%、一方「有料化すべきではない」は26.3%となっている。

#### 〔臓器提供意思表示カード等の普及啓発〕

臓器提供意思表示カード等の認知度について聞いたところ、「所持している」と答えた人の割合が9.0%〔「カード(シール)を所持しており、意思を記入している」(4.7%)、「カード(シール)を所持しているが、意思を記入していない」(4.3%)〕であり、「カード(シール)のことは知っているが、所持していない」は79.0%、「カードのことは知らなかった」は12.0%となっている。

家族の臓器提供の意思を尊重するかどうか聞いたところ、「尊重する」と答えた人の割合は76.8%〔「尊重する」(30.4%)、「たぶん尊重する」(46.4%)〕であり、「尊重しない」は7.8%〔「たぶん尊重しない」(5.5%)、「尊重しない」(2.3%)〕となっている。